

## 平成29年度 事業報告

### 1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

#### 1) 関連研究プロジェクト

(高橋会長)

(1) 研究タイトル『女子中学生の運動習慣の向上ーダンスプログラムを通してー』

(2) 申請者：細川江利子（埼玉大学）高橋和子（横浜国立大学）笹本重子（日本女子体育大学）

高野牧子（山梨県立大学）飯田路佳（十文字学園女子大学）八木ありさ（日本女子体育大学）笠井里津子（日本体育大学）佐藤廣子（竹早教員保育士養成所・非）

(3) 研究背景：子どもの豊かな運動やコミュニケーションの乏しさによる弊害が叫ばれて久しい。特に、中学校女子では「1週間の運動時間0分が67.9%もいる」との報告がある（文部科学省平成26年度調査報告書）。この現状への対応策として、全国の中学生1万人への調査結果では、中学校女子はダンスを肯定するとともに、褒めて指導すれば運動意欲が喚起されることが明らかになった（高橋和子2015）。子どもの体に起きている異変の早期発見と対処のため、文部科学省は2016年から健康診断項目に「運動器（体を支え動かす役割をする体の器官の総称）に関する検診」を追加した。運動器の機能を改善する方法としてはストレッチやボディワークなどの有効性が報告されているが、特に女子中学生が好む傾向にあるダンスも有効な手立てとなるのではないだろうか。そこで、本研究では女子中学生を対象とし、楽しく体を動かすことを習慣化して運動器の機能不全に対処できるようなダンスプログラムを開発し、その有効性を実証することを目的とした。

(4) 研究報告：2年目の平成29年度は、ダンスプログラム（試案）を作成し、女子中学生への介入実験等により有効性の検証を行った。

#### 2) 加盟団体との共同研究

(高橋会長)

以下の本部と加盟団体との共同研究を実施した。

(1) 継続 鳥取県女子体育連盟（共同研究者：高野牧子）

研究テーマ「インクルーシブシステムとしてのダンス学習の可能性」

結果：ダンス学習の特性である「互いの良さや違いを認め合う」を実感できる指導の可能性と、校種間さらに社会との連続性を探求することを目的に、全国大会では「つながり・個性と世代をつなぐそして未来へーインクルーシブ教育を考えるー」をテーマに掲げた。障がいのあるなしに関わらず誰もが、生涯にわたる自分の生き方を考えていける教育のための、学びの繋がりを目指し、分科会を保幼小連携、小中連携及び、学校から社会への3分科会とした。学校間の連携では、指導者がつくる「認め合い、発揮し合う学びの環境」を連続させることの重要性、また学校から社会への繋がりで、生涯にわたって学び続ける手がかかりとしての学習内容の提示の必要性が明らかになった。

#### 3) 全国女子体育研究大会

第51回全国女子体育研究大会(鳥取大会)

□高野常務理事、佐分利理事

(1) 期日 2017年11月24日(金)・11月25日(土)

(2) 会場 伯耆町立岸本小学校 伯耆町立岸本公民館 伯耆町民岸本体育館 伯耆町農業環境改善センター  
米子市文化ホール 鳥取県立米子西高等学校 米子コンベンションセンター

(3) 主催 公益社団法人 日本女子体育連盟 鳥取県女子体育連盟

- (4) 後援 スポーツ庁 公益財団法人 日本学校体育研究連合会  
 鳥取県 鳥取県教育委員会 米子市教育委員会 伯耆町教育委員会  
 鳥取県高等学校長協会 鳥取県特別支援学校長会 鳥取県中学校長会  
 鳥取県小学校長会 鳥取県学校体育研究連合会 公益社団法人鳥取県体育協会  
 公益財団法人とっとりコンベンションビューロー
- (5) テーマ 「繋・個性と世代をつなぐ そして未来へ ーインクルーシブ教育を考えるー」
- (6) 内容 (24日) 分科会(保幼小連携、小中連携、学校から社会へ) (25日) 全体会
- (7) 参加者 全国の保・幼・小・中・高校および大学、生涯スポーツ指導者等
- (8) 人数 県外参加者 95名、県内参加者 194名、公開演技参加者 153名、  
 公開演技鑑賞者 55名 計 497名
- (9) 参加費 6,000円
- (10) 概要

1日目(24日)は分科会が行われた。保幼小連携、小中連携の各分科会では、伯耆町岸本地区での公開授業と研究発表及び協議を行った。保幼小連携では鳥取短大の学生25名も熱心に参加した。小中連携では、表現の本質をどのように子どもに伝えるか等について活発な協議がなされた。学校から社会へ分科会は、特別支援教育、高等学校そして生涯スポーツが合同で、どのように個を活かし生涯にわたってダンス、そして生活を楽しむかをテーマに、まず、合同の3つの実技研修を行った。その後3つに分かれ、高等学校は公開授業と研究協議、他はそれぞれの実技研修を行った。

2日目(25日)は全体会が米子市文化ホールメインホールで行った。オープニング、開会式、JAPEW賞授賞式、特別講演(ヴォルフガングシュタンゲ氏)、研究発表、公開演技、閉会式、そして閉会式後には、NHK 東日本大震災復興ソング「花は咲く」を公開演技出演者全員に合わせ、客席の皆様も一緒に踊っていただいた。多くの方に支えられて大会を閉じることができた。

分科会内容 (研究テーマ) 「互いの良さや違いを認め合う」を実感できる学習の連続性

分科会	研究テーマ	公開授業者	研究発表者	指導助言者
A 保幼小連携	パワー全開！とびだせ！つながれ！	伯耆町立こしき保育所 花田 愛 伯耆町立溝口小学校 松原亜紀子	鳥取市立福部未来学園 油谷 哲志	山梨県立大学 高野 牧子 鳥取県教育委員会 生田 優介
B 小中連携	学びのつながり！おもしろいを集めてみんなで表現	伯耆町立岸本小学校 三輪 仁志 伯耆町立岸本中学校 福田 友理	鳥取大学附属中学校 吉田 有希	ノートルダム清心女子大学 安江 美保 鳥取県教育委員会 橋本 康雄
C 学校から社会へ	個を活かし、生涯楽しむ	実技研修1,4(C2) 実技研修2 実技研修3 C1 高校公開授業 指導助言 指導助言 C3 実技研修5 実技研修6	ヴォルフガング・シュタンゲ 日本女子体育大学 八木 ありさ 十文字学園女子大学 飯田 路佳 鳥取県立米子西高等学校 寺澤 ゆかり 埼玉大学 細川 江利子 鳥取県教育委員会 足立 一枝 鳥取県女子体育連盟 青山 典代 鳥取県女子体育連盟 加藤 朋子	

## 2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

### 1) サマーセミナー

#### JAPEW SUMMER SEMINAR 2017—平成29年度夏期講座—

- 生涯スポーツ／授業・保育／研究交流専門委員会(佐藤常務理事、高野常務理事、古関理事)  
(公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業)

期 日	2017年8月12日(土)・13日(日)・14日(月)
後 援	スポーツ庁、東京都、(公財)日本体育協会、(公財)スポーツ安全協会、 (公財)ミズノスポーツ振興財団
会 場	国立オリンピック記念青少年総合センター (NYC)
内 容	講演、講義、実技、実習、交流会など
参加者	全国の幼保・小・中・高校および大学、生涯スポーツなどの指導関係者、大学生等
参加費	生涯スポーツコース：2日料金：会員 12,960円、一般 15,120円、学生 7,560円 1日料金：会員 6,480円、一般 7,560円、学生 3,780円 ※会員=正会員・特別会員および『女子体育』定期購読者 学校体育コース：1日料金：会員 6,480円、一般 7,560円、学生 3,780円 教員免許状更新講習(1日間) 会員・一般 6,480円 DMI Lクリニック(1日間) 有資格者 5,400円 DMI L養成講習会(3日間) 会員・一般・学生 16,200円

#### <概 要>

本年度のテーマは「ダンスがひらく学びの世界—主体・対話・創造—」とし、学校体育コースは「新学習指導要領にそったダンス指導法」、生涯スポーツコースは「ふりかえり そして広げる」をそれぞれテーマに掲げ、8月12日から14日の3日間開催された。昨年同様、学校体育コースは1日ごとの受講を可能とし、教員免許状更新講習も同時に開講された。生涯スポーツコースも今年度は1日受講が可能となり、また初の試みとしてサマーセミナー受講を外部の資格更新対象にする様式を取った。加盟団体から1名の無料参加を募り、12団体が利用された。参加者の内訳は、学校体育コース47名(会員23名、一般14名、学生10名)、生涯スポーツコース165名(会員92名、一般67名、学生6名)、加盟団体枠12名の計247名であった。また、教員免許状更新講習は、50名が受講した。

学校体育コース(教員免許状更新講習を含む)1日目の講演は高田彬成氏による「新学習指導要領における表現・ダンス」であった。運動の価値を伝えること、学びの過程を重視すること、さらに学習者自身が「わかって、できる」ことが強調された。続くシンポジウムではダンス・表現の授業についての要点が提示され、課題としてリズム系の学習内容の整理・指導充実に向けた取組が必要である事が挙げられた。実技は安江美保氏による「小学生の表現・リズムダンス」で、カルタを使った楽しい授業展開、その他の実技講座でも創作ダンスや現代的なリズムのダンスのユニークな授業展開が紹介された。3日目の平山素子氏による実技「イメージネーションの具体化による動きの洗練」では、投げかけられた言葉にひとり一人が夢中になって動き、新鮮で有意義な体験となった。

一方、生涯スポーツコースの1日目は産婦人科専門医の高尾美穂氏による「女性のエイジングと運動」で、女性ホルモン分泌の変動に伴う身体の変化や更年期障害についての講演、外部講師による実技では、「旋律と肉体のハーモニー」のテーマにそって振付師上田遙氏によるタンゴに挑戦し、視線や身体の使い方を学んだ。初日の最終単元では、両方のコースで復習・交流会が開かれ、受講

者の熱心な姿が見られた。2日目の東畑開人氏による「心の健康法 指導者のための心理学」では、社会が前向き過ぎる風潮で心が追い詰められる時に「ほどほどがよい」というご提言に多くの受講者が心をほっとさせたようだ。選択実習講座の「ダンスエアロ～要素を活かしたエアロビクスのダンス展開法～」(鈴木悠氏)は、簡単なエアロステップから自然に動きが展開し最終的には「コーヒールンバ」のラテンダンスに。「笑顔がつながるシナプソロジー～脳を活性化プログラム～」(増子俊逸氏)は、できそうでできない複雑な課題に思わず笑いが起こる和やかな講習となった。また、高橋眞琴参与をはじめとする4組の内部講師による実技講習は、それぞれが『・・・から広がる』という共通テーマを持ち、様々なジャンルの音楽に合わせて、地方から参加される大勢の指導者達に新しい挑戦の場を提供した。

## ■プログラム

		9:30	10:00	10:20	11:50	13:00	14:20	14:35	15:55	16:10	17:30	19:00	20:00
8月12日 (土)	生涯スポーツコース	受付	開講式	講演/高尾美穂 「女性のエイジングと運動」【セ417】	昼食	実技①佐藤廣子 「ダンスムーブメント」 【ス1・2体】	実技②上田 遙 「タンゴに挑もう」 【ス1・2体】	実技③高橋眞琴・田中安理 「ダンスムーブメント」【ス1・2体】				復習 【1・2体】	
	学校体育コース (教員免許状更新講習を含む)	受付	開講式	講演/高田彬成 シンボ/高田・高橋・安江【セ101】	昼食	実技/安江美保 小学校の表現・リズムダンス【ス4体】	実技/宮本乙女 運動会のダンス 【ス3体】	教員免許状更新講習のみ試験 【ス5体】				交流会 【ス1・2体】	
8月13日 (日)	生涯スポーツコース (資格更新対象)	受付	講義/東畑開人 「心の健康法」 【セ102】	実習①鈴木 悠 「ダンスエアロ」 【ス1・2体】	昼食	実技④多田五月 「ダンスムーブメント」 【ス1・2体】	実技⑤飯田路佳 「ダンスムーブメント」 【ス1・2体】	実技⑥「まとめ」 【ス1・2体】			閉講式		
	学校体育コース (教員免許状更新講習を含む)	受付	実技/高橋和子 創作ダンス① からだほぐしから表現へ 【ス3体】	実習②増子俊逸 「シナプソロジー」 【ス5体】	昼食	実技/細川江利子 創作ダンス② 演出を加えて 全体作品(体育祭)へ 【ス4体】	実技/田巻以津香* 現代的なリズムのダンス 身近な動きからダンスへ 【ス3体】	教員免許状更新講習のみ試験 【ス5体】					
8月14日 (月)	学校体育コース (教員免許状更新講習を含む)	受付	実技/小笠原大輔 誰でも取り組みやすい ユーモア溢れるダンス 【ス3体】		昼食	実技/平山素子 イマジネーションの具体化による 動きの洗練 【ス4体】	閉講式	教員免許状更新講習のみ試験 【ス5体】					
	DMLクリニック		※内容は有資格者に別途ご案内										
	DML養成		※内容は有資格者に別途ご案内										

## 2) 未来世代の研究発表会

### 第61回未来世代の研究発表部門&卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会(高野常務理事、茅野理事)

期 日 2018年2月11日(祝・日)  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(センター棟311、スポーツ棟第1・2体育室)  
内 容 ①研究発表部門 <第61回未来世代の研究発表会(卒論・修論・博論)>  
②卒業ダンス作品発表部門  
参加者 高校生、大学生、高校・大学の指導関係者、会員、一般  
計 約200名  
参加費 発表者:1人1000円、参観者:研究抄録プログラム代500円(ダンス鑑賞者は必需)

#### <概 要>

この研究発表会は、3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による、研究(口頭発表・ポスター発表)とダンスの発表会である。今年度は口頭発表3題(博論1題、修論2題)、ポスター発表48題、ダンス発表8作品、ダンス招待校2校の発表があり、発表者(計82名)・指導教員・研究発表参観者・ダンス参観者(96名)を含め、計200名の参加人数であった。各大学において、ご指導下さった先生方に心より感謝申し上げたい。

今年度は、発表者一人あたりの参加費を昨年度までの500円から1,000円に変更した。参観者の研究抄録プログラム代は変わらず500円のままとした。また、小ホールが改修工事中で使用できないため、会場をポスター発表は第1体育室、ダンス発表は第2体育室に変更した。口頭発表は160人室での開催であったが、ポスター発表者もダンス作品発表者も参観し、人があふれるほどの盛況ぶりであった。ポスター発表は、広々とした体育室での開催と合って、ゆとりをもったパネル配置が可能となり、近くของกลุ่มの声が邪魔になることなく発表・聴講することができた。ダンス作品は移動式の観覧席を設け、舞台と客席がフラットになることなく、観客が発表を見やすくなる工夫を行うことができた。フィナーレでは招待校の大学生や高校生も参加して、ダンサーも観客も楽しめるひとときとなった。小ホールとの設備の違いはあったものの、体育館での実施も広い空間でゆったりと行うことが出来、発表者や参観者から好評を得ることができた。次年度も同じ場所での開催となるため、今回見受けられた反省点を次年度には改善し、運営において活かしていきたい。

## 3) JAPEW-ダンスムーブメントセミナー

### 広域連携推進事業/JAPEW-ダンスムーブメントセミナー2017 in 山口

□飯田常務理事、佐藤常務理事

(公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業)

共 催 山口県女子体育連盟  
期 日 2018年2月17(土)・18(日)  
会 場 山口県スポーツ文化センター レクチャールーム  
後 援 スポーツ庁 (公財)日本学校体育研究連合会 山口県教育委員会  
山口市教育委員会 山口県体育協会 (公財)日本教育公務員弘済会山口支部  
講 師 高橋和子、八木ありさ、佐藤廣子、矢野道代(JAPEW-DMIL S級インストラクター)  
飯田路佳

参加者 県外38名、県内187名、見学者67名 講師等8名 計300名

参加費 4,000円

<概要>

山口県女子体育連盟および山口県 JAPEW-DMIL S級指導員でもある矢野道代特別会員主宰の矢野健康体操研究会およびクラブのご尽力により、県内外の生涯スポーツ指導者・学校体育関係者等、国内広範囲からダンスムーブメントに関心の高い300名もの方々が参集し、講義と実技の充実したセミナーとなった。さらに、多くの県から大勢が参加された懇親会では楽しく和やかな交流の時間を共有することができた。温かなご配慮とつながりに感謝を申し上げたい。今回は今までよりも JAPEW と各県との絆を再確認する会ともなり、今後の活動へのヒントとなった。

#### 4) 「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」養成事業 (略称 JAPEW-DMIL)

□指導員制度専門委員会 (飯田常務理事、佐藤常務理事、古関理事、小松理事)

##### ①「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」養成講習会

<A級-第14回、B級-第18回、C級-第21回>

期 日 2017年8月12日(土)・13日(日)・14日(月)  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会  
内 容 理論、実技 計21時間 (※12日・13日はサマーセミナーAコース受講に代える)  
講 師 高橋眞琴、飯田路佳、佐藤廣子、相澤勝治  
受講者 今年度資格取得希望者 A級2名、B級2名、C級4名 計8名  
受講料 会員・一般・学生 16,200円

##### ②「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 2017年9月16日(土)・17日(日)・18日(月)  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会  
内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験  
講 師 高橋和子、八木ありさ、細川江利子、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、  
受講者 A級2名、B級2名、C級4名  
合格者 A級2名、B級2名、C級4名  
検定委員 高橋和子、八木ありさ、細川江利子、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、  
飯田路佳、佐藤廣子、寺山由美  
概 要 本年も、優れた資質の指導員を輩出することができた。詳細は『女子体育』10・11月号  
で報告した。公認指導員現数は161名。

##### ③「JAPEW-ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日 2017年8月14日(月)  
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会  
内 容 実技研修  
講 師 片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、八木ありさ、寺山由美  
受講者 A・B・C級 有資格者 57名

受講料 会員 5,400円

概要 本年も多くの公認指導員の参加があった。クリニックおよび養成講習会に関する詳細は『女子体育』12・1月号で報告した。

### 3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

#### 1) 『女子体育』編集発行 □『女子体育』編集専門委員会（宮本常務理事、高橋うらら理事、中村理事）

①刊行 隔月刊・年間6回とし、発刊は発刊月前月の25日発刊とした。

構成：通常号4本、特集号2本（ダンス指導のQ&A・指導法特集号、AJDF報告特集号）

②方針 平成29年度も引き続き、通常号80頁、増刊号120頁、横書き、写真の掲載等、同様の方針で取り組んだ。

③購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円

④年間テーマ 「主体・対話・創造 ダンスがひらく学びの世界」

⑤月テーマ

○4・5月号（通常号） 誰もが主役・みんなが主役

ひとりひとりが主体的に、学ぶ姿勢をどのように作り出すのか、また一人一人の表現をどのように尊重し、光をあてていくのか、具体的に論じ、また実践を報告した。

○6・7月号 「殻を破る・自分を広げる」

「自分は無理」「どうせできない」と高い壁をつくってはいないだろうか？ 自分を変えようと思うきっかけは何か？ 高い壁を崩すにはどのような環境や支援が必要なのか？ 一歩を踏み出す勇気を共に考えていく、ということで、実践を報告した。

○8・9月号（特集号）

保存版ダンス指導ハンドブックⅧ 特集「ダンス指導のQ&A・ダンス指導実践集」

学習指導要領の改訂で何が示され、どのように表現・ダンスの授業を改革していくべきなのか、第1部はQ&A形式での実践報告、第2部は実践事例で構成した。

○10・11月号 AJDF 特集号

第30回記念大会の様子を紹介いただき、これまで通り、全作品に写真を掲載した。

○12・1月号 「多様な視点・こだわりの視点」

多様な他者と互恵的に結びつきながら自分の個性を発揮し、多様性のある集団の発展に参加・貢献できる体験を通して、相互に個性的な能力の平等性を承認し合う「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した理論と多様な実践事例を紹介した。

○2・3月号 「日々を重ねる・未来へ繋げる」

苦境を乗り越えて実践し続けるには、どのようなサポートが必要でしょうか？あきらめない粘り強さ、日々を積み重ねる大切さ、一生涯の基盤となる「生きる姿勢」「学び続ける姿勢」を論じていただいた。また、第51回全国女子体育研究大会鳥取大会を報告した。

#### 2) 『学術研究』発行

□『学術研究』編集委員会（高野美和子理事、中村理事）

『日本女子体育連盟 学術研究』第34巻を刊行した。

## 4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

### 1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

#### 第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸):30th All Japan Dance Festival-Kobe

□AJDF-KOBE専門委員会(八木副会長、平田理事、佃理事)

期 日	2017年8月7日(月)・8日(火)・9日(水)・10日(木)
会 場	神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館
主 催	(公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会
主 管	第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 実行委員会
後 援	文部科学省、スポーツ庁、(公財)日本体育協会、NHK(日本放送協会)、 (公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、 兵庫県教育委員会、(公財)神戸市スポーツ教育協会、 (公財)ミズノスポーツ振興財団、(一財)地域活性化センター
協 賛	(株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社
協 力	(公財)ユーハイム・体育スポーツ振興会
内 容	①開会式 ②創作コンクール部門(高校/予選・決選、大学/予選・決選) ③参加発表部門 ④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品、ゲスト作品) *特別プログラムは大ホールにて2回公演(入場料¥4,000)
表 彰	文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1) 特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)
参加校数	①創作コンクール部門 高校/96・大学/29 計125校 ②参加発表部門 高校/42・大学/18 計60校
参加人数	①創作コンクール部門 高校/1,726・大学/448 計2,174名 ②参加発表部門 高校/ 907・大学/378 計1,285名
参加都道府県数	28
TV放映	NHK Eテレ 8月19日(土) 14:00~15:00
その他	・第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)販売 ・第30回大会のDVD(Blu-ray)販売の申し込み ・大会の詳細を『女子体育』10・11月号報告特集号に報告

<概要> 第1日目には、台風接近のため開会式が中止となったことを受け、計画外の対応を行う場面があったが、全参加校の顧問と選手代表が定刻通りに顧問会議に出席し、開会式で行う予定であった「選手宣誓、大会表彰杯の返還とレプリカ贈呈」を行うことができ、結末が高まった。開会式に上演予定であった10年間を振り返る「第30回記念映像」は受賞作品集DVDに収めて販売することになった。第2日目予選、第3日目決選、第4日目参加発表部門上演は、ほぼ予定通り行われた。第4日目の表彰式では松本千代栄名誉会長も登壇、特別プログラムでは「第30回大会記念ゲストパフォーマンス『Intermezzo-本気のはしやすめ-』(近藤良平氏・平山素子氏・大前光市氏)が上演された。参加者数は延べ3,459人、参加校数は185校で概ね昨年並み。役員とスタッフは併せて195名(大会役員:総務・上演・アナウンス・審査・式典・受付・記録・DVD等販売・接待・会場・救護・警備:155名、サボちゃんズ:21名、舞台監督・照明・音響・アナウン

ス・写真・印刷等：19名）で運営に取り組んだ。参加都道府県の増加については今後も取り組んでいきたい課題である。音楽使用に関する著作権や美術品などの知的財産権に関わるルールについて情報収集し、「大会参加申込要項」に反映するようにした。

## 2) 国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会(八木副会長、田中葵委員長、原田理事)

### ① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

#### ○国際女子体育連盟 (IAPESGW) との連携

・2017年5月18日-21日に開催された第18回国際女子体育連盟 (IAPESGW) マイアミ国際会議での開催内容配信及び現地実行委員会からの情報発信を行った。同会議では、2021年に第19回 IAPESGW 国際会議を東京で開催することが決定した。それに伴い、東京大会開催に向けて検討項目等をマイアミ国際会議参加者と検討した。

・国内におけるスポーツ・ダンス推進団体の日本代表である(公社)日本女子体育連盟会長・高橋和子、NPO法人JWS (Japanese Association for Women in Sport) 代表・小笠原悦子氏、WSFジャパン (女性スポーツ財団) 日本支部事務局・高橋昭子氏との連絡調整を行った。

#### ○JAPEW HP に「国際情報」ページを新たに設け、IAPESGW ニュースレターを毎月配信している。また CID (International Dance Council 国際ダンス協議会)、IWG (International Working Group on Women and Sports 女性とスポーツの国際ワーキンググループ) を中心とした、海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

### ② インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

期 日 2017年4月30日(日) レクチャー：15:00-16:45 ワークショップ：18:00-21:00

会 場 国立オリンピック記念青少年センター センター棟・403 カルチャー棟・リハーサル室

主 催 (公社) 日本女子体育連盟

協 力 Contact Improvisation Nihon Network (C. I. N. N.)

講 師 Yang Seunghee (ヤン・スンヒ : Korean National University of Arts 所属)

内 容 コンタクト・インプロヴィゼーション

参加者 ダンスに関心のある学生、指導者

参加費 学生2,160円 会員3,240円 一般5,400円

<概 要> 国際理解をより深めるために、実技とレクチャーを交えてワークショップを実施した。クラス前半では、講師の経歴及びアジア人として海外でダンスを学び、働いて得た経験談や、コンタクト・インプロヴィゼーションの理論等を伝えるレクチャーを実施し、後半にはコンタクト・インプロヴィゼーションの実技を実施した。参加者数は計25名(学生16名、会員2名、関係者1名、本部役員2名、当日役員4名)で、今日的なテーマと高度な講習内容を、より多くの会員に紹介でき、参加を促進できる方法について検討してゆく必要がある。事後に行ったアンケートから、レクチャーと実技とがあったことは意義深いものであったことが伺えた。一方、長時間にわたる開催であり都合のつかない参加者もいたため、部分的な参加も可能であることをチラシに掲載する等、広報の仕方に工夫が必要であった。2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年の IAPESGW 国際会議東京大会開催に向け、ダンスを通じた国際理解と交流につながるワークショップの企画運営を実現していきたい。

### ③ (公社) 日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

○ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。

○連盟の活動を IAPESGW News Letter へ投稿した。

④ 日本国内にある異文化グループや国際交流グループとの連携事業についての検討

○学校や地域において、体育・スポーツ・ダンスを通じた異文化交流が推進できる方法を提案できるよう、情報収集を行った。

## 5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

### 1) JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会（細川副会長、熊谷理事）

JAPEW 賞は社団法人日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代栄賞」が制定された。本年度は功労賞および指導者賞について候補者の推薦があり、2017（平成 29）年 5 月 28 日に各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。表彰者には、第 51 回全国女子体育研究大会（鳥取大会）開会式（11 月 25 日）において表彰状と副賞を授与し、顕彰した。なお、表彰者氏名は機関誌『女子体育』誌上およびHP 上で公表した。

① 第 4 回松本千代栄賞 該当者なし

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）杉山重利、川口千代、片岡康子、村田芳子、笹本重子、細川江利子

② 第 6 回 JAPEW 功労賞

受賞者 岡部和子氏（山梨県）、島袋厚子氏（沖縄県）、永野美代氏（高知県）

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）杉山重利、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、笹本重子、石澤宣子

③ 第 14 回 JAPEW 指導者賞

受賞者 牛山眞貴子氏（愛媛県）、加藤恵津子氏（東京都）、斎藤淳子氏（千葉県）、  
鈴木裕美子氏（福島県）、古田裕子氏（新潟県）

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）山西哲郎、林眞幾子、細川江利子、飯田路佳、佐藤廣子、小松恵理子

④ JAPEW 研究奨励賞 該当者なし

選考委員会（委員長）高橋和子

（委員）金子明友、細川江利子、八木ありさ、高野牧子、笠井里津子、茅野理子

## 6. 広報・普及活動

□広報・普及委員会（高野美和子理事）

### 1) 『女子体育』購読促進活動

- ・『女子体育』定期購読者増員のための活動（広報・普及および編集専門委員会、事務局）を行った。
- ・新規及び継続購読者獲得、新卒学生への購読推進及び購読期限切れ対応を行った。

### 2) 企画・広報

- ・事業報告・事業計画・財務諸表（決算書・予算案等）の情報をHPに公開した。
- ・総会にて上映する平成28年度の活動映像を作成した。
- ・国際女子体育会議（マイアミ）にて上映するIAPESGW 2021 東京大会招致映像を作成した。
- ・各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。

- ・未来世代の研究発表会のエントリーをHP上で行った。
  - ・加盟団体の情報をHPに掲載し、相互リンクを行った。
- 3) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』 第34巻を電子化しJ-STAGEに公開した。
  - 4) 『JAPEWニューズレター』 NO.1を作成し、HP上に掲載した。